

炊き出しボランティア通信 vol 4 8

2011. 5月

ご無沙汰いたしておりました。

2月はボランティアのスタッフも顧問もごっそり修学旅行の期間でありました。

3月の炊き出しは、3月12日(土)の実施予定でしたから、震災の翌日で炊き出しそのものが吹っ飛びました。

しかし、教会では震災の翌日から毎夕食の炊き出しが行われたということです。

私たちボランティアの入る炊き出しは4月になりましたが、まだ余震続きのところから、当然のことながらお家の方が心配されて、生徒の参加予定も取りやめになりました。したがって、4月の炊き出しの様子からお知らせします。

炊きだし 4月9日(土) スタッフの人員と公園までの輸送手段が不足ということで北仙台教会のホールを借りてそこで食事会と衣類提供をしました。お出でになったのは42名ほどでした。特に長机に並べた衣類は大変でしたが、皆さんに協力してもらい混乱なく進めることができました。

5月14日(土) この日も北仙台教会での炊き出しとなりました。ただ天気がよかったので、衣類は外の通路に並べて提供することができました。

この日から高校生ボランティアが入りました。本校5人、S学園5人の計10人でした。協力して働きました。

本校は進路で忙しくなる3年生を先陣させました。3年生たちは1年次から炊き出しに参加してきたのも多いので、報告書ではボランティア活動の3年間のふり返りをするように伝えました。





ふり返し1

三年間ボランティア活動をおこなってきて本当によかったと思うし、勉強になることがたくさんありました。

炊き出しボランティアに参加することを通して、自分の住む家があること、食べる物があること、不自由なく暮らしていることが、この世では当たり前ではないことを目の当たりにしました。

最初はどのようなふうに接したらいいのか不安だったし少し怖い印象がありました。けれど、ホームレスの方とお話をしていくうちに、優しい方だったり親切な方だったりなど、いろんな面を発見してゆくことができました。わたしの中で勝手な想像をしていたことに本当に失礼なことをしてしまったと思います。

炊き出しで、ひとつの楽しみであったのが温かくておいしい豚汁とおにぎりです。これはみんなで協力して作るからこそ、おいしく感じるのではないかと思います。

これからもボランティア活動を継続してゆきたいです。また、一番の願いは、ホームレスの方々が一人でも多く減って普通の生活を送ってほしいことです。





ふり返し2

はじめてホームレスの方々への炊き出しに参加したときは、わたしなりに衝撃を受けました。男の人ばかりだと思っていたら女の人も数人いてショックでした。炊き出しボランティア以外にも募金に参加してきましたが、どれも楽しみながらしてこれたのでよかったです。ボランティアから多くのことを学びました。人々の関わりが大切だなとボランティアをする旅に思います。

ふり返し3

今回は北仙台教会での準備・炊き出しでした。前回参加したときよりも女性の方が増えて、全体的には人数が減っていましたが、見たことない新しい方がたくさん来ていました。震災の影響もあるのかなあと思いました。この炊き出しボランティアを通じて多くのことを学べたし、たくさんの人と関われたと思います。第一にボランティアは「してあげる」という考えから、「させてもらっている」という考えに変わったことです。2年生のはじめて参加したときは、ただひたすらやっていたけれど、今じゃ慣れてきてホームレスの人たちと会話しながらできるようになりました。





ふり返り4

今回の炊き出しには、一人の女性の方が、石巻から震災の影響で路上生活しているとのことで、とても心が痛みました。

三年間の活動をふり返ると、募金活動については、私は街頭募金というのは初めての経験でしたので、知らない人たちに呼びかけなんてできるのかと、正直不安に思いました。ですが、友だちに助けをもらいながら、呼びかけをすることにより、まず自分自身が自信を持って取り組むことができたし、そして、私たちが募金をすることで、直接は関わらないかもしれないけれど一人でも多くの命が救えたらよいと思うし、募金に対する考えが変わったと思う。

炊き出しボランティアは、ホームレスの人にどう接したらよいか全然分からなかったのですが、別に深く考えなくても、普通に笑顔で接するようにしました。衣類提供しながら笑顔で接しているとホームレスの方も話しかけてくれたり笑顔を見せてくれます。そして、今までの自分の生活がどれだけ幸せであるか、改めて思わせられました。

ボランティア同好会に入って、今まで経験してこなかったことが経験できて、とてもよかったです。

献品

3月の夜回りの際に預かった献金1万5千円をWさんに届けました。茨城に住むこの高校卒業生の方からは今までも度々お預かりしています。感謝に堪えません。また3月に1年生のボランティア生徒の保護者から正平教スタッフへお菓子のお礼が届いていたとのこと、びっくりしました。お心ありがとうございます。高校の保護者からも衣類をたくさんいただきました。また本校の校長の友人の皆さんから米と衣類をごっそりお預かりしました。同好会の活動に心をかけて下さっている。すべてすべて、うれしいかぎりです。

夜回り

3月9日(水) 20時～21時半 夕方小雪が舞った。Iさんという本校の卒業生と同行した。「H先生は? BMは? お元気ですか。」を繰り返した。「担任は誰でしたか?」「・・・先生とその後・・・先生でした。」「そりゃあ最強じゃないですか。」

国際センターに二人。大橋の下、ゴミの山に一人いるよとHさんから言われ捜しに行った。「Kdさん?」「Tnさん?」Hさんから教わったうろ覚えのお名前を呼びながら、あちこちビニールのかかったゴミの山の中を捜し回った。寝ているかも知れないからビニールの上からつついてくれ、といわれていたがあまり気持ちいいものでない。返事がないのでおむすびを置いて帰ろうとしたら、奥の柱の下あたりがモソモソ動いて「ハイ」ときた。Iさんと私が「Kdさんですか?」「Tnさんですか?」と聞くと、「Kyです」と答えて大笑い。それで挨拶は済んだ。西公園のOさん元気。大木下石ベンチの歯っ欠けおじいさんせつない。

4月2日(土) 11半。石ベンチに寄る。マイペースの話しされ、お変わりなし。

4月6日(水) 20時半～21時半 被災後の街のホームレスの話。いつもより衣食に潤っている。大橋下のKyさんも石ベンチのおじいさんも訪ねるといつもと変わらなかった。Oさんは「地震の時はちょうどわたしのティータイムでね。いやあ参った。」こっちも参った。

5月11日(水) 大橋下Kyさん。「炊き出し来ませんか?—アパートの相談はHさんとしましたか?」「ここをもうちょっと整理してからね。」目の前には広大なゴミの山。西公園石ベンチ。人のよさそうな笑顔のおじいさん。カップ麺や味噌スープとおむすびにゆで卵を置いてくた。人が、ここで生きている。たぶん、人の生活から離れてしまった人が。でも、生きている人に変わりはない。…近くで若い男達が5～6人遊んでいる。立ち去る時に気になった。応援服を着ている。二高の応援団かもしれない。あと3日で定期戦と聞いた。それでも夜回りの帰りまた車を止めて様子を眺めてから帰った。

一番はボランティア同好会の生徒の親の皆さん。そしてまた、理解を示して応援して下さいるたくさんの方達。この通信を今回も発行できたことに心から感謝します。

ボランティア同好会 顧問 高橋 寛

2011/06/07 (Tue) 14:57